

## 建設協会が英語教材を寄贈

鶴田町建設協会（松山淳会長）では8月2日（水）、町の小中学校の英語教育に役立ててもらいたいと、英語教材98点（約20万円相当）を町へ寄贈しました。

11回目を迎えた寄贈式には、松山会長や須郷守夫副会長、町英語教育推進委員会委員長の福澤諭菖蒲川小学校校長らが出席。今回寄贈された教材には、英語の読み書きやリスニング用に、本やCD、DVDなどが含まれており、2学期から各学校で使用されています。

松山会長は「教材を活用して気軽に英語に触れてもらいたい」とあいさつ。相川町長は「教材を使って子どもたちがますます英語に興味を持っていくはず。本当にありがたいことです」と感謝の言葉を述べていました。



△福澤校長（右）、松山会長（中央）、須郷副会長（左から2人目）



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

## 思い思いに花のアレンジを楽しむ

お年寄りの方々に学習や体験をとおして健康で生きがいをもってもらう「鶴田町ことぶき大学」の一環として、8月1日（火）、公民館でフラワーアレンジメント教室が開かれました。当日は60～80代の男女26人が講師の種市勝子さんから、花のきれいな生け方を学んでいました。

教室では、リンドウやトルコギキョウ、スプレーマムなど数種類の花を使い、はさみで長さを変えたり色合いなどのバランスを見ながら自分好みのアレンジを楽しんでいました。参加者の八木橋キセさんは「きれいに見せるためのバランスを考えるのが難しかったですが、学んだことを家でも実践してみたいと思います」と話していました。



△参加者に花のきれいな生け方を教える種市さん（中央）

## 女子ミニバス優勝の喜びを報告

鶴田クラブ（鶴田小ほか町内小学校の合同チーム）の部員らが8月18日（金）、役場を訪れ、同月11日（金）、12日（土）に開催された「東北電力旗第30回東北ミニバスケットボール大会（セキスイハイムアリーナ（宮城県））」の女子の部で優勝したことを相川町長に報告しました。

大会は東北6県と新潟県から厳しい予選を勝ち抜いた男女16チームが出場して開催されました。

報告会で、キャプテンの齋藤和さんは「最初は緊張でいっぱいだったけど、今まで練習してきたことを十分に出せました。応援のおかげもあり優勝できました。ありがとうございました」と嬉しさで感謝の気持ちを述べていました。



△優勝の喜びを報告した鶴田クラブの部員ら



△商品の品出しをする鶴田中学校の生徒

## 職場体験を将来の参考に

8月29日（火）、30日（水）の2日間、鶴田中学校の1年生が町内の飲食店や学校、福祉施設などで職場体験を行いました。

ローソン鶴田町店では、男子生徒4人が商品の品出しやファーストフードを作る作業を体験。カップラーメンの品出しでは、従業員から「(商品の)後ろに商品を重ねて置くと、前の商品が崩れないですよ」とアドバイスを聞きながら仕事に取り組んでいました。安田煌汰君は「<sup>きらくと</sup>どういう仕事をしているのか体験して勉強したいと思いました。将来は寿司屋で働きたいので、お客さんを待たせることがないように仕事を早く進めなければならないことが参考になりました」と話していました。

## 原子力に理解を深める

9月1日（金）、原子力に関する意見交換会（県原子力立地対策課主催）が町国際交流会館で開催され、参加者が原子力への理解を深めました。

意見交換では、「本県は本当に核の最終処分場にならないのか」「電力会社の再生可能エネルギー料金が上乗せされているが、どこまで値上がりするのか」といった意見が挙げられました。

東京大学環境安全本部の飯本武志教授は、日常生活で使われている放射線について「有用な面もあるがリスクは避けられない。情報を集めながら上手に使わなければならない」と解説。また、量子科学技術研究開発機構の杉本雅樹上席研究員が「暮らしに役立つ放射線」について講演しました。



△教材を用いて放射線利用の実験を披露する杉本研究員（左）